

アルプラゾラム錠 0.4mg 「アメル」

アルプラゾラム錠 0.8mg 「アメル」

【この薬は？】

販売名	アルプラゾラム錠 0.4mg 「アメル」 ALPRAZOLAM Tablets 0.4mg 「AMEL」	アルプラゾラム錠 0.8mg 「アメル」 ALPRAZOLAM Tablets 0.8mg 「AMEL」
一般名	アルプラゾラム Alprazolam	
含有量 (1錠中)	0.4mg	0.8mg

患者向医薬品ガイドについて

患者向医薬品ガイドは、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

【この薬の効果は？】

- ・この薬は、抗不安薬で、ベンゾジアゼピン系と呼ばれるグループに属する薬です。
- ・この薬は、脳が興奮している状態をしずめ、不安や緊張をやわらげるはたらきがあります。
- ・次の病気の人に処方されます。
心身症（胃・十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群、自律神経失調症）における身体症候ならびに不安・緊張・抑うつ・睡眠障害
- ・この薬は、体調がよくなったと自己判断して服用を中止したり、量を加減したりすると病気が悪化することがあります。指示どおりに飲むことが重要です。

【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

- 次の人は、この薬を使用することはできません。
 - ・過去にアルプラゾラム錠「アメル」に含まれる成分で過敏症のあった人
 - ・急性閉塞隅角緑内障の人
 - ・重症筋無力症の人
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。
 - ・心臓に障害のある人
 - ・脳に器質的な障害のある人
 - ・衰弱している人
 - ・中等度呼吸障害または重篤な呼吸障害（呼吸不全）のある人
 - ・腎臓に障害がある人
 - ・肝臓に障害がある人
 - ・妊婦または妊娠している可能性のある人
 - ・授乳中の人
- この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。

【この薬の使い方は？】

●使用量および回数

飲む量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

通常、成人の飲む量および回数は、次のとおりです。

販売名	アルプラゾラム錠 0.4mg 「アメル」	アルプラゾラム錠 0.8mg 「アメル」
一回量	1 錠	0.5 錠
飲む回数	1 日 3 回	

- ・1日の最高量は、2.4mg です。1日3～4回に分けて飲みます。
- ・高齢の人が初めて飲む場合は、1回0.4mg、1日1～2回から開始されます。
1日1.2mgを超えて飲まないでください。

●どのように飲むか？

コップ1杯程度の水またはぬるま湯で飲んでください。

●飲み忘れた場合の対応

決して2回分を一度に飲まないでください。

気がついた時に、1回分を飲んでください。ただし、次の飲む時間が近い場合は1回とばして、次の時間に1回分飲んでください。

●多く使用した時（過量使用時）の対応

誤って多く飲んだ場合、傾眠（刺激がないと眠ってしまう）、錯乱（注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない）、協調運動障害（思っているとおりの動作ができない、複雑な動作ができない）、反射減退（反応が遅くなる、反射低下）、昏睡（意識の消失、刺激に全く反応しない）などがあらわれることがあります。いくつかの症状が同じような時期にあらわれた場合は、使用を中止し、ただちに受診してください。

【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・眠気、注意力・集中力・反射運動能力などの低下が起こることがあるので、自動車の運転等危険を伴う機械の操作はしないでください。
- ・この薬を続けて飲んでいると、薬を摂取したいと強く思いコントロールが出来ないなど、薬物依存の症状があらわれることがあるので、長期間の使用は避けることとされています。このような症状があらわれたら、医師に連絡してください。また、この薬の量を急激に減らしたり、中止したりすることで、けいれん発作（顔や手足の筋肉がびくつく、一時的にボーっとする、意識の低下、手足の筋肉が硬直しガクガクと震える）、せん妄（軽度の意識混濁、興奮状態、幻覚、妄想）、振戦（手足のふるえ、首のふるえ）、不眠、不安、幻覚、妄想などの離脱症状があらわれることがあるので、この薬を中止する場合には、徐々に減量されます。この薬の飲む量や飲む期間については医師の指示に従ってください。
- ・アルコール飲料は、この薬に影響しますので控えてください。
- ・妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
- ・授乳を避けてください。
- ・他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を飲んでいることを医師または薬剤師に伝えてください。

副作用は？

特にご注意ください重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
依存性 いぞんせい	ある薬を摂取したいと強く思いコントロールが出来ない、手足のふるえ、発汗、幻覚、不眠
離脱症状 りだつしょうじょう	脱力感、いらいら感、頭痛、吐き気、嘔吐（おうと）、不眠、幻覚、幻聴（幻声）、けいれん発作
刺激興奮 しげきこうふん	口数が多くなる、大声で叫ぶ、周囲に暴力をふるう、器物を破壊する、些細なことで怒る
錯乱 さくらん	注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをす、行動にまとまりがない
呼吸抑制 こきゅうよくせい	呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸（どうき）、息苦しい
肝機能障害 かんきのうしょうがい	疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振
黄疸 おうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	発汗、脱力感、けいれん発作、ふらつき、疲れやすい、体がだるい、力が入らない、体がかゆくなる
頭部	ある薬を摂取したいと強く思いコントロールが出来ない、不眠、いらいら感、頭痛、口数が多くなる、大声で叫ぶ、周囲に暴力をふるう、器物を破壊する、些細なことで怒る、注意力が散漫になる、問いかけに間違った答えをする、行動にまとまりがない、幻覚、幻聴（幻声）
眼	白目が黄色くなる
口や喉	吐き気、嘔吐、喉のかゆみ
胸部	呼吸回数が減る、呼吸が浅くなる、動悸、息苦しい
腹部	食欲不振
手・足	手足のふるえ
皮膚	全身のかゆみ、じんま疹、皮膚が黄色くなる
尿	尿の色が濃くなる

【この薬の形は？】

販売名	アルプラゾラム錠 0.4mg 「アメル」	アルプラゾラム錠 0.8mg 「アメル」
	素錠	素錠
形状		
PTP		—
直径	6.0mm	7.5mm
厚さ	2.1mm	2.7mm
重さ	80.0mg	160.0mg
色	白色	白色
識別コード	KW127	KW156

【この薬に含まれているのは？】

販売名	アルプラゾラム錠 0.4mg 「アメル」	アルプラゾラム錠 0.8mg 「アメル」
有効成分	アルプラゾラム (0.4 mg)	アルプラゾラム (0.8 mg)
添加剤	乳糖水和物、トウモロコシデンプン、結晶セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸マグネシウム	乳糖水和物、トウモロコシデンプン、ヒドロキシプロピルセルロース、ステアリン酸マグネシウム

【その他】

●この薬の保管方法は？

- ・直射日光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：共和薬品工業株式会社

(<http://www.kyowayakuhin.co.jp/>)

お問い合わせ窓口

フリーダイヤル：0120-041-189

受付時間：9 時～17 時 30 分

（土、日、祝日、その他当社の休業日を除く）